

第52回教誨師中央研修会評価委員会議事録

- 1 日 時 平成29年8月31日(木)
午後0時10分から午後1時30分まで
- 2 場 所 法務省地下小会議室
- 3 出席者
全国教誨師連盟
 舎奈田経夫副理事長、石川 宣副理事長、山根眞三副理事長、
 中川文隆副理事長、竹岡郁雄副理事長
 堂山愛生、金嶽宗信、嵩 海史、藏田秀樹、浅野秀盛、海老澤裕之
事務局
 龍田恒夫事務長、佐藤 均主事
関係者
 法務省矯正局成人矯正課 野口公希事務官
- 4 研修目的
 第52回教誨師中央研修会の評価について、研修に参加した教誨師74名に
 対しアンケート用紙を配布して実施して、その回答を評価の参考とした。
 研修会の目的は、矯正行政の施策や方向性並びに矯正施設の収容動向等を理
 解するとともに、薬物依存者の心理や抱えている問題等を題材として、被収容
 者に対する教誨の在り方について研究討議を行い、教誨実施に必要な広い知識
 や技能の習得を図り、教誨活動の向上に資することを目的として実施した。
- 5 議事内容
 (1) 事前準備
 - ・ 研修会を実施するにあたり、企画委員会及び企画実行委員会を開催して
 研修目的や研修テーマ等について十分な検討が行われるとともに、準備
 を行った。
 - ・ 講師の選定や、分科会(班別討議)について、研修参加者にとって有益
 なものになるようにした。
 - ・ 教誨功労者表彰式典の実施日程について検討を加え、研修会当日の最初
 に実施するようにした。

(2) 大会当日

- ・ 薬物依存者をテーマとした研修については、研修参加者から好評との評価を受けた。
- ・ ダルク関係者を招いての分科会（班別討議）を実施したが、反応は非常に良好であり、研修参加者はダルク関係者と意見交換を活発に行い、今後の教誨活動に必要な事柄などを吸収することができた。
- ・ 分科会（班別討議）を実施することによって、全国から研修会に参加した教誨師が各地方の教誨活動の状況等について情報を収集することができ、参考になる事項が多くあったとの反応が多くあった。

(3) 研修会の感想

- ・ 薬物依存者に関する講演では、前回（第51回教誨師中央研修会）よりも踏み込んだ内容であり、薬物使用者の気持ちや抱えている悩みや不安などを詳しく知ることができたとの良好な反応であった。
- ・ 分科会（班別討議）の際に、各班にダルク関係者が1名加わり討議や意見交換を実施した結果、講演だけでは知ることのできなかつた薬物依存者の実態を深く理解することができたので良好であったとの感想が多くあった。

今後の研修会においても同様な内容で研修を実施すべきであるとの意見も多くあった。

- ・ 中央研修会に参加したことにより、教誨師それぞれ習得した知識や技術を今後、実際の場面で展開することにより、被収容者の心の悩みや不安を解消できるようにするとともに、改善更生意欲の向上に繋がることが確認できた。

中央研修会に限らず他の研修会は、教誨技術等を向上させるために必要かつ重要な事業であることから、研修内容をより充実させるとともに継続して研修会を実施する必要があることが確認できた。

6 効果

行刑施設に収容されている被収容者のうち、薬物使用に関係している者が多くいることから、こうした教誨対象者に対する教誨について、ダルク関係者を招き、班別討議に参加して、討議・意見交換を実施した結果、研修参加者にとって多くのことを吸収することができて有益な効果をもたらすことができた。

また、最新の情報を入手することができたのに加え、新たな気持ちで教誨を実践することができるようになり、教誨対象者との接触の仕方にも良い変化をもたらすことができた。

研修後、教誨師同志の意見交換を進んで行えるようになり、今後の自己の教誨活動に反映させたいとする反応が多くあった。

研修会に参加した教誨師の感想として、自らが教誨活動に対する意欲がより向

上することにより、教誨を受ける被収容者等が積極的に反応するようになったと感じられるとの感想も多くあった。このようなことから今回の研修会は良好であり、最終目的を達成することができたと評価する。